

SOTOKU

崇徳学園同窓会
関東支部
会報
— 第21号 —

発行：崇徳学園同窓会関東支部 編集：支部事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-37-20

http://www.geocities.jp/sotoku_kanto/ mail:sotoku_kanto@yahoo.co.jp

ホテル機山館
TEL (03) 3812-1211(代) FAX (03) 3816-1218

第25回の総会を盛大に！ 幅広い人材の母校に期待と感謝 ～新しい時代を担う母校教育を一体となって支援しよう!!～

崇徳学園同窓会関東支部会長 **黒川 弘**
(昭和33年卒)

昨年は3月11日の東日本大震災とこれに続く福島第一原発の事故（死者不明1.9万人、現避難者34.4万人）、さらには台風の激甚災害という未曾有の災害に見舞われた年でした。また世界的にもタイの水害等の異常気象が続き、さらにチュニジア・エジプト・リビア・イエメンと中東地域を中心に多くの紛争（本年もシリア・イラン等）が多発し、政権交代もありました。さらにギリシャ等の欧州の財政危機とこれに伴う経済の不透明感が世界を覆った年でした。この中で我が国の整然と社会秩序を維持しながらの災害の復旧と復興に見せた市民の立ち上がりや連帯力には全世界が日本を再認識し、賞賛し、多くの諸外国からの支援活動や支援金があり、本当に感謝します。国内でも国や公共団体の活動を越えた市民のボランティア活動や資金援助があり、日本の絆と行動の伝統と文化を感じた年でした。本年はこれらの上にさらに新しい地域社会を目指す動きが活発化すると思われます。

助けあい支えあいの仏教精神のもと全人格教育を目指す母校は、本年も将来を担う高校427名、中学75名の新入生諸君を迎えました。基礎・理数重視の新指導要領の教科書も動き初めています。本年の高校卒業生は348名で、私も卒業式に激励のため出席しましたが、大学進学でも、国公立大32名、私立大等495名の合格者と大活躍です。国公立大では東京外大、東京農工大、大阪大、神戸大、和歌山大、鳥取大、島根大2、岡山大、広島大4、山口大5、愛媛大3、九州大2、熊本大等が、関東私立では早大2、明治2、青学、中央2、法政8、日大14、専修8、学習院、東洋4、東海5、東京工科4、東京歯科等が、関西では関大12、関学6、同志社7、立命11、龍大19等が、地元広島では、広島経済41、広島工業64、広島国際30、広島修道57、東広島近畿6、比治山5等が報道されています。スポーツでも母校は幅広く大活躍ですが、東京でも本年1月の東京体育館の第43回全国バレー選抜大会、3月の日本武道館での第34回全国柔道選手権には個人戦の5クラス中4クラス・団体戦に母校の元気な後輩が活躍され、関東同窓会も熱の籠った激戦を応援しました。

さて関東支部は本年昭和63年に諸先輩が関東支部を設立されてから第25回目の総会となります。昨年の総会は7月8日（金）に高橋理事長、大本同窓会長、内田近畿同窓会長等のご出席のもと、バイオリン演奏と参加者全員のスピーチで親しく懇談の華が咲き、連帯の輪の中「二葉山」の校歌斉唱と記念写真で盛大に締めくくりましたが、本年の総会は7月7日（土）の昼の開催です。本部の同窓会長、校長、理事長の三役にもご出席いただき母校の活動の報告もあります。青壮老の皆様の幅広い出席で第25回の総会を大いに盛り上げましょう。大学生は無料です。声を掛け合いのご参加や一人でものご参加を歓迎します。

昨年11月の広島の本部総会には私と島原代表、渡部・瀧口・室崎副会長が出席し、乾杯の音頭、関東支部の現況の報告をしまし

7月7日(土) 12:00より本郷三丁目集まろう。

都心に近く、騒音に遠く交通至便の所
優雅・閑静本郷唯一の
全日本シティホテル連盟員
日本観光旅館連盟員

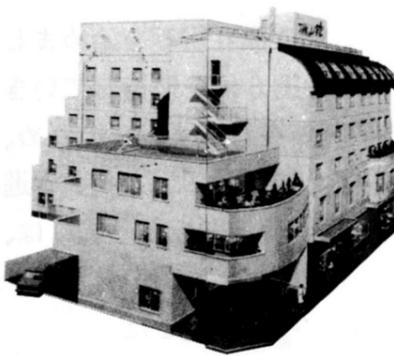
ホテル機山館

代表取締役 **重本 康成**
(昭和48年卒)

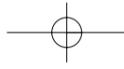
株式会社 機山館
〒113-0033
東京都文京区本郷4-37-20
TEL (03) 3812-1211(代)
FAX (03) 3816-1218



最新の設備を整えた宴会室。
大小5a所の部屋(5名~150名収容)をご用意。
照明、音響など、とれをとって重厚かつ格調ある空間づくりです。
会議室としてもご利用いただけます。



地下鉄丸の内線・大江戸線本郷三丁目駅より徒歩2分 本郷三丁目交差点角交番横に入る



た。懇親会では、選抜高校野球で優勝し52年卒で早大から新日鉄君津の監督、ソウルオリンピック野球日本代表で、早大野球部監督を六大学優勝の一昨年勇退された應武篤良氏が野球人生と指導の神髄の講演をされ、またカープ山崎立翔二軍監督の退団挨拶もありました。本年3月の近畿崇徳会の総会には私と瀧口副会長が出席しお祝いを申しましたが、オリンピックバレー選手の35年卒森山輝久氏のスピーチも。なお44年卒で日立・ダイエー監督から全日本女子バレー代表監督でバルセロナ五輪5位入賞を導かれた米田一典氏のご逝去が報道され、ご冥福をお祈りします。

本年1月には平成23年度第66回「文化庁芸術祭賞の大衆芸能部門の優秀賞」を44年卒の落語真打の古今亭菊丸師匠が、古典落語に真摯に取り組む人間の情の描出に高い評価を受けられ、文化界の最高の素晴らしい授章に輝かれました。2月の関東での大学同窓会の祝賀会には柳家福治師匠や瀧口、小笠原、重本、光若氏等崇徳同窓の方も沢山出席され私からもお祝いを申し上げました。1月の東京広島県人会の総会では同窓の24年卒岩部金吾副会長と46年卒の歌手南一誠氏の歌謡曲「広島天国」等が会場を沸かせました。

執筆文化では高橋乗宣理事長が浜矩子教授との共著「2012年資本主義経済大清算の年になる」（東洋経済）で主張された地域が主役の経済と成熟日本の新たな世界への地平「成長したバンビの優しい子供見守り」の指針が目まぐるしく注目を浴びます。また第二次世界大戦70年の12月9日の東京新聞「こちら特報部」は二面にわたり16年卒西村克哉氏の「2つの祖国」記事・米国シアトル生まれ9歳で日本へ母校卒・そして開戦・父や兄は米国、山口高商（現山口大）2年学徒出陣・釜山基地から雲仙特攻基地へ・作業中長崎原爆の黒雲が上がる、終戦後米軍通訳の経験と米軍の兄との再会等々の報道が。私事ですが昨年10月赤坂御苑の秋の園遊会にご招待いただき、天皇陛下、皇太子殿下、秋篠宮殿下、常陸宮華子妃殿下と直接会話をでき、大変光栄でした。母校での幅広い教育に感謝します。

昨年は親鸞聖人750回御遠忌でしたが、鎌倉時代は公的な仏教から市民や女性の個人救済への大転換期で既存秩序を乗り越えての決死的活動だったと思います。大谷光真御門主は、あらゆるいのちは如来の光のなかにあり、人と人、地域と地域、動物や植物等全ての命や自然や宇宙等の万物が時間空間を超えてすべて繋がっており、お互いに支えあっているとされます。私も西本願寺に参拝し、「世のなか安穏なれ」のもと御遠忌行事の中心を担われた33年卒の後藤壽邦西本願寺総務と歓談し、母校教育の大切さを再認識しました。

我々同窓は災害復興や新しい社会づくりに家庭、地域、学校での総ぐるみの中で、経験の語りや行動で積極的に「絆」社会の構築に参加しましょう。同窓会は母校への思いを基礎に「青壮老」全員参加です。学生さんも、現職の方も、会社を卒業され地域や孫教育や趣味やスポーツに意欲的に参画されている方も、是非積極的に御参加下さい。ゴルフ会も活躍中です。幹事への自薦他薦大歓迎です。幹事会は島原代表幹事、瀧口総括、重本局長のご指導の下、年5回程度です。「崇徳応援旗」もあり、必要なときは一緒に応援に駆けつけましょう。 合 掌

グローバル時代の崇徳教育

崇徳学園理事長
高橋 乗宣

東日本方面では、大地震、大津波の襲来に続いて、竜巻や降雹（ひょう）等々、文字通りの天変地異が続いていますが、崇徳同窓の皆様にはお変わりなくご健勝のことと拝察し、お喜び申し上げます。

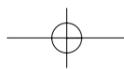
さて、21世紀に入ってグローバル化の流れが激しく進行しています。企業は、製造業、非製造業の別なく海外での事業展開に注力しています。その結果、国内の求人は低迷し、学卒者の就職内定率がかつて無い低水準となる一方で、就活に失敗して自殺する若者が急増しつつあります。

グローバル化による影響は、当然、教育界にも及んでいます。東大が秋入学への移行を提起したり、早大が四学期制への移行を示したりしているのも、いずれもグローバル化への対応と言えます。これからは、日本国内の大学においても、日本人学生と外国人留学生が互いに切磋琢磨する時代になっております。そして、一流大学・有名大学を卒業しても、卒業後の進路は決して保証されないという、大変に厳しい時代に入ったようです。

こうした時代を迎えて、崇徳教育をどのような方向へ展開するべきか、このことが現在の大きな課題となっています。これまでのように、進学実績の向上を追求するだけでは時代の要請に応えることはできません。『崇徳興仁』の理念をもって、「国の内外の隔てなく」はばたくことができる人材を育成することが最も肝要だろうと考えております。

教職員の皆さんの弛まぬご尽力によって、この少子化時代にあっても全校で1400名と、概ね理想的な生徒数を確保できています。また、一時は財務の悪化傾向が著しくて憂慮しておりましたが、近年はほぼ理想的なバランスを取り戻しています。そこで、いよいよ新時代への対応に注力しなければならないと考えているところです。

このことに取り組むについても、同窓の皆さん方のお力添えが不可欠であります。引き続きご支援くださいますようお願いいたします。





自己を鍛え、他への思いやりを尽くせる人間をめざす後輩たち

崇徳中学高等学校 校長

吉田 義視

同窓会関東支部諸兄の皆さまにはますますご壮健にて多方面にご活躍のこととお慶び申し上げます。みなさまの母校「崇徳」も今年度は高等学校が36学級1258人、中学校が8学級217人、合わせて1475人の生徒と教職員134人で元気にスタートしました。

高校3学年は揃って12学級とクラス数が並びました。偶然でしょうか、学級数が3学年同じになることは無かったことです。今春の新生は、中学校が75人で昨年の65人から少し勢いを取り戻しましたが、学園が目標とする中学校（中高一貫）の形態にたどり着くにはさらに時間と努力を要するところです。学力レベルを維持しながら、「もう20人」の入学生を迎えることができるよう、一貫コースの教育力の向上と募集宣伝にさらに頑張る所存です。一方、高校は一昨年の419人、昨年の439人に続いて、今春も427人の新生を迎えることができました。それで、前述の全学年12学級となったわけです。施設・設備や教職員数などから見ても、12クラス揃いという高校の現状はなかなか好ましいと思われまます。これもひとえに地域や公立中学校の信頼を得ることができ、また教職員のみなさんが大いに頑張っており、さらには同窓会やPTAなど学園を支持・支援して下さる多くの方々のお陰と、深く深く感謝申し上げる次第です。

さて、その後輩諸君の1年間の活躍、その概略をご報告します。崇徳生が残してゆく立派な成果、その2本柱は進路実績とクラブ活動実績にまとめることができます。その進路状況（大学合格実績）を見ますと、今春の卒業生は348人と例年に比して人数が少なく、大学合格実績も数字的には前年の8割程度に縮みまました。話題になる国公立大合格者数は40人で、全体数は昨年の53人をかなり割り込みまました。広島大学・医・医、大阪大学、神戸大学、九州大学（2人）、東京外国語大学などの難関大は好調でしたし、また広島大学4人、広島市立大学4人、山口大学5人など近隣の大学にも例年に近い人数の合格者がありました。一方の私立大学では関東の早稲田マーチ（明治・青学・立教・中央・法政）に15人、関西の関関同立36人で、昨年には及ばなかったものの一昨年の合格者数を上まわりました。その他、中堅私大や地元私大への合格者も生徒数の減少に比べればよく健闘したといえるでしょう。

次にクラブ実績の主要なところをご報告します。全国大会は、北東北でのインターハイに10クラブ、山口国体に7クラブ、そして今春の選抜大会には6クラブが出場しました。柔道・弓道・バレーボール・体操・ボクシング・自転車・水泳の常連クラブの他に剣道・テニス・陸上・ラグビー・空手道部が全国大会出場を果たしました。入賞は、インターハイで柔道100kg超級の飯田健伍選手が優勝（山梨学院大へ進学）、100kg級で筒井選手が5位、81kg級では香川選手が5位、弓道部は団体6位でした。国体では、バレーボール部が崇徳単独チームとあってよい状況（レギュラー外に他校選手1人）で5位、ボクシング部はライトウェルター級森広選手とウェルター級中林選手がともに5位、弓道部が遠的で6位でした。今春の選抜では自転車トラック競技で海老本選手が5位に入りました。多くのクラブがこの1年も好調を続けています。この他に柔道で前記の飯田選手がフランスエクサンプロヴァンス国際大会で優勝、また今春入学直後の柔道部1年貫目選手（廿日市・野坂中出身）がカデ（16歳以下の国際大会）で昨年の野々内選手に続いて全国優勝を果たしました。

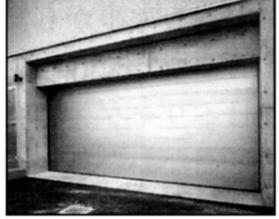
さて、中学生の話題を少々。人数は少ないですが、中学生も頑張り屋さんが増えてきました。3年前まではダラダラとお喋りしながら歩く姿が目立った月例マラソン大会（太田川土手を2周＝6.4km）では、体力不足で歩く生徒はまだ多いものの、スピードは遅いながら懸命に走る生徒がほとんどになりました。教員の、頑張れ、の声に応じて、ほとんどの生徒が気合いを入れて走ります。大学合格実績でも一貫コース（崇中あがり）からの難関大合格がグッと増えまました。崇中生、いわゆる“やんちゃ”は本当に少なくなりましたが、真っ向から物事に向かって勝負するタイプの生徒は、嬉しいことにだんだんと増えつつあります。

このような流れの中で迎えた崇徳の138年目です。生徒にとっては、自己を鍛え他者への温もりと思いやりを尽くせる強い人間に成長する場、私ども教職員にとっては、生徒を導きながら私自身の人間性を拡げて社会に尽くすことのできる場でありたい、そのような願いを抱いての日々でございます。

同窓生のみなさまのご健勝を念じあげますとともに、後輩諸君へのご支援ご指導を重ねてお願い申し上げます。

BX
文化シャッター

いろいろなdreamをカタチにしていきたい。
たとえば「スタイリッシュなガレージ」とか「陽射しあふれる部屋」とか…ね。
「shut」だけじゃない。もっと、心に響く発想へ—。



住宅用オーバースライディングドア
フラットピット

Bunka ×  dream

文化シャッター株式会社
本社/〒113-8535
東京都文京区西片1丁目17-3
代表取締役会長 **岩部金吾**
(S24年卒)

BXは、文化シャッターが未来に向けて挑戦し、進化する姿を示しています。



SOTOKU

第21号

2012年6月

取締役会長

瀧口 裕行 Hiroyuki Takiguchi

株式会社 アルファワールド

〒194-0032 東京都町田市本町田197-10
TEL. 042-812-3005 FAX. 042-812-3005
E-Mail jose-hiroyuki@ab.auone-net.jp

古河ヤクルト販売株式会社

監査役 **島原 昭士**

(昭和23年卒)

〒306-0015 茨城県古河市南町1-62
TEL. 0280-31-8960
FAX. 0280-31-2579



株式会社 **山 豊**

〒731-3196
広島市安佐南区沼田町伴79-2
TEL 082 (848) 7778
FAX 082 (848) 2334

0120-311238

URL <http://www.yamatoyo.co.jp>
WebShop <http://www.hiroshimana.com>
e-mail y-info@yamatoyo.co.jp

会 長 山本 豊 (昭和19年卒)
代表取締役 山本 千曲 (昭和51年卒)



心のこもった
旬の安藝菜漬をお手元に、
大切なあの方へ...

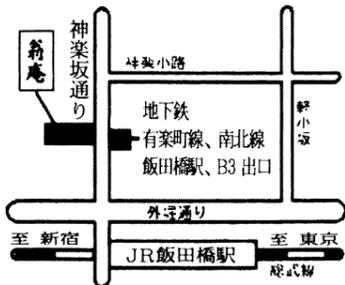


内閣総理大臣賞受賞
農林大臣賞受賞
農林水産大臣賞受賞

あきな **安藝菜**

おきだ 生珍心 翁庵

東京都新宿区神楽坂1-10 アイゲビル
PHONE 03-3260-2715



嘶家

柳家 福治

電話 FAX 五十年卒 本名 山中英嗣
〇三二五三七二一八〇二

古今亭 菊丸

電話 FAX 四四年卒 本名 占部正夫
〇三二八四五一四一七九
Email Ushino@aol.com

パーティー・結婚式の司会・余興
ゴルフ・旅のお供
引越しの手伝い
落語会等、その他何でもお電話ください

崇徳ラグビー部 創部80周年記念行事のご案内

日付 2012年7月28日 (土)

13:00~14:00 崇徳高校講堂にて

講演 今後の日本ラグビーの進むべき道と
若者に期待する事 村田 瓦氏

講演終了後、グラウンドにてコーチング

18:30~20:30 ANAクラウンプラザホテルにて
創部80周年記念パーティーを開催



中国醸造

お酒は20歳を過ぎてから。

54年卒 光若 由啓 電話 03-5475-6051



同窓会に新しい風を

崇徳学園同窓会会長

大本 和則

これまで崇徳祭にご協力をいただいています関東支部所属の古今亭菊丸師匠が文化庁芸術祭賞の優秀賞を受賞されたことは同窓会としまして誇らしく、大変嬉しい出来事でありました。菊丸師匠におかれましては、健康に留意され今後益々のご活躍をお祈り致します。

同窓会の活性化のためには同窓会懇親会を楽しいものとし、多くの同窓生に参加していただくことを願い、昨年度は崇徳OBの前早稲田大学野球部監督應武篤良さんに講演をしていただき、上綱克彦さんとHIPPIYさんにライブを行っていただきました。内容の濃い同窓会懇親会となりました。今後とも更に楽しい同窓会懇親会にすべく努力して参りたいと考えています。

また、「顔の見える同窓会」をさらに深化させていくことを役員ともども考えています。若い同窓生のみならずベテランの同窓の皆さんに多く参加していただけるような工夫をし、同窓会に新しい風を起こすことができればと思っています。

その意味では、在校生に対し、崇徳同窓会関東支部の存在をアピールする必要を感じています。関東支部のご協力をいただき関東の大学に進学した学生の皆さんに関東支部の同窓会に参加していただけるようなシステムを構築することができれば勝手ながら考えています。これから関東支部と具体的な方策について協議をさせていただきたいと考えていますのでご協力をよろしくお願い致します。

関東支部におかれましては、今後とも同窓会へのご支援をよろしくお願い致します。

陸上競技部近況報告

崇徳中・高等学校 陸上競技部 顧問

岡村 義巳

陸上競技部は現在、中高合わせて40名以上が所属し、短距離、中距離、長距離、投てき、跳躍に別れて活動しております。大芝ランニングコースを利用して練習に励んでいますが、スタジアムなどにも積極的に足を運んでいます。一人ひとりが目標をもち、自主的に練習に取り組み、着実に力をつけてきております。その結果、800mにおきまして、2年連続インターハイに出場を果たし、大変うれしく思っております。今年も、県大会で活躍する選手が増え、あとに続いてくれることを期待しております。

中学生も高校生と一緒に走ることで刺激をうけ、県大会出場を目標に日々努力を続けています。

陸上競技部の活動を通して、つらい時でも、それに負けずに最後まで粘れる強い人間になれるよう、これからも指導していきたいと思えます。

ラグビー部近況報告

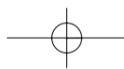
ラグビー部顧問

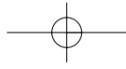
佐伯 誠司

ラグビー部は現在、中学校と高校の2つのチームで活動しています。7年前に中学校にラグビー部が誕生した初年度の部員が高校3年生になった昨年は、第12回全国選抜ラグビー大会の出場権獲得や第54回中国高校ラグビー大会Bブロック優勝などの結果を残す事ができましたが、選抜大会が東日本大震災の影響で大会中止になったことは非常に残念でした。昨年11月に行なわれた全国高校ラグビー大会広島県予選では、準決勝戦で広島工業高校を破り決勝戦に進出しましたが、残念ながら尾道高校に破れて念願の花園出場は叶いませんでした。しかし、長年のライバルであった広島工業高校を破って花園出場まで今一步のところまで行った事は、今後の大きな経験になると思えます。

今年度は中学校に12人、高校に20人余りの新入部員が入部し、新しいラグビーの仲間が増えました。昨年の経験を最大限に生かし、今年度こそ念願の花園出場を果たすため部員達は日々の練習に進研に打ち込んでいます。

同窓生の皆様には、いつも熱いご声援をいただき有難うございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。





軽音楽部近況報告

軽音楽部顧問

平佐 善雄

軽音楽部には現在、1年生29名、2年生24名、3年生35名の計88名の部員（2011年度）がいます。7年前に広島県中学校高等学校軽音楽連盟が発足し、本校軽音楽部も1年目から参加しています。主に年3回の大会があり、毎回20～25バンド（各校2バンドまで）の参加の中で、優勝目指して各校日々練習を重ねています。

本校での日々の練習としては、バンド毎で外部のスタジオを利用したり、教室で個人練習を行っています。また、崇徳祭では、グラウンドに特設ステージを設置し、毎年10バンドぐらゐの出演によるライブを行っています。天候が心配ではありますが、屋外でのライブは、出演者にとってはなかなか気持ちがいいようです。

今後も練習環境を整えながら、楽しく活動して行きたいと思います。

軽音楽連盟主催の大会での主な成績

平成18年度	最優秀校賞	
	最優秀バンド賞	「クロアチア」
	優秀バンド賞	「DELIKA TESSEN」
平成19年度	最優秀校賞	
平成20年度	優秀バンド賞	「Prime Time」
	オーディエンス賞	「Prime Time」
平成21年度	審査員特別賞	「ダーウィン」
	団体部門第2位	
平成23年度	パフォーマンス賞	「クリシェ」

人生とは

近畿崇徳会会長

内田 信

(昭和28年卒)

「青春とは単に年齢を表すものではなく、心の持ち方に依ってかわるものである」とはよく聞く話である。人間の心に愛情や情熱が有れば、何時までも青春を保つことができると、言うことなのか。昔、宋に朱新仲と呼ぶ師が「人生に五計あり、これにて処世を行なえ」と教えたそうである。即ち身計、生計、家計、老計、死計の五計とある。

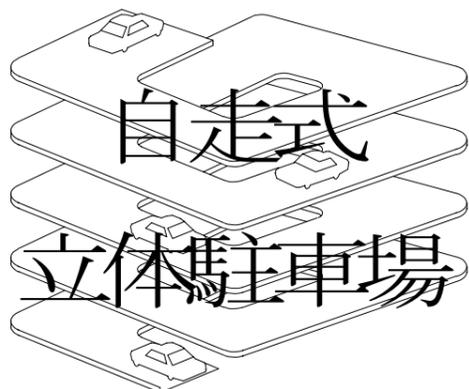
初めの身計とは独自では難しく、生まれたての身では何をすることも出来ないであろう。だが、歩行する頃になれば、充分に人間としての思考は出来てくるのでは。三つ子の魂百までか？

そして生計以後は、自身の生活に関わるものであろう。教育が重要な事項となり、その生活、教養をレベルアップする必要がある。社会に於けるより高い、経済生活を目指す事になる。

そして老いてからは、如何に暮らすかが、現在の高齢化社会では問題となるであろう。物、心共に身の回りを清潔に整理しておき、天命を待ち、後に後ろ指を指されては成らぬ様にせよと、言うことなのか。我が身を振り返ってみれば、既に後期高齢者であっても、その心境に非ず、最後の計の域に在るのを知る。

京都二条に「がんこ」と言う料亭が在るが、此処は明治の元老・山縣有朋公の屋敷の一つである。豪邸を幾つか持っていたが、その為か物議を醸し晩年は寂しい人生を送られたとか。此処は邸宅も広いが、庭が素晴らしい。岩山を造り加茂川の水をポンプアップして滝に落とし、高瀬川の流れにしている。今にして思えば、立派な建造物を良くぞ後世に残して戴けたものだと感じるのだが。但し最近公を見直す学説も有るように聞く。

しかし、この話は、凡なる私には縁の無い話だが、自身、社会の一員として、何か役に立っているのではあろうか？せめて元気ぐらいが関の山か、老人パワーの片棒でも担ぐとするか。元気な老人と言えば、「水戸黄門」がTVドラマであったが昨年12月、42年間の放送が幕を閉じている。この長寿番組の最初からの監督・山内鉄也は中大の同期（舟入高校出身）でもあり、この「がんこ」には、よく会合等で一緒に飲んだ。テーマソングの「あ 人生に涙あり」もよく唱った。そんな時、この様な話もしてくれた。或る時、「明日おも知れぬ老いた身には、続き物は困る」との投書があった。それまでは連続物も制作していたが以降、「毎週一話終結」を実行しているのだと。スタッフの方々の老人への優しい気配りが、ドラマの裏にあったのだ。彼は正にこのドラマへ、情熱と人生を懸けておられたのだ。残念乍ら彼は最後の番組を知らず、一昨年他界されている。もしも生きていて番組終了を知ったとしたら、如何したであろうか。人生にも、ドラマにも終わりが在った。死計をもつて、静かに幕を下ろすべきであろう。



駐車場の建設で、まちづくりに貢献する



大井建興株式会社 東京支店

取締役支店長 藤井 康司 (S51年卒)

東京都大田区北馬込一丁目3番7号
TEL(03)5718-1611 FAX(03)5718-1615
<http://www.ohi-kenkou.co.jp>

